

「健康で文化的な最低限度の生活」守ろう

生活保護改悪に反対

全生連が国会内で集会



許すな！生活保護の切り下げ 全生連1・24緊急集会
2013年11月24日 衆議院第一議員会館大会議室

「生活保護の引き下げは許さないぞ！」と開かれた全生連の院内集会。24日、衆議院第一議員会館

「国民に広く影響する生活保護の切り下げは許さない」と全国生活と健康を守る会連合会は24日、国会内で集会を開きました。

安形義弘会長は「政府は生活保護引き下げを皮切りに、年金や介護の改悪もねらっている」と指摘し、生活保護改悪を食い止めようと訴えました。生活保護費の引き上げを求めてたたかった朝日訴訟で、原告朝日

茂さんの訴えを認めた一審判決を起案した裁判官から寄せられた「憲法25条は守られなければならない。『健康で文化的な最低限度の生活』を満たしていないければ、生活保護の削減はしてはならない」というメッセージを紹介しました。

NPO朝日訴訟の会の理事で朝日茂さんの承継人、

朝日健二さんは「朝日訴訟で保護基準引き上げを勝ち取った。その引き下げは許さない。朝日訴訟当時の気持ちでたたかう」と連帯のあいさつをしました。

前日弁連会長の宇都宮健児弁護士は「金持ちから応分の税を取り社会保障で国民に再分配しなければ、貧困はなくなる」と指摘。生活保護引き下げを撤回させるチャンスはあると強調し、「金持ちから税を取れ」をテーマに運動を広げていくことを表明しました。

日本共産党からは穀田恵二衆院議員（国会対策委員長）と田村智子参院議員が参加。穀田議員は「生活保護切り下げを許さないたたかいが、国会内での対決に向けた第一歩。国民の暮らしに関わる問題としてたたかおう」と呼びかけました。